

# 川崎の中小収益力に課題

川崎市内の中小企業は技術力はあるが収益力に欠ける。専修大学大学院の社会知性調査研究センターの調査でこんな実態が浮かび上がった。調査にあたった経済学部の本光晴教授は「地域の中小企業が成長するためには、経営能力などの一層の向上が求められなくてはならない」と分析する。

## 技術力はあるけれど…

調査は昨年八月九月、川崎市内に拠点を置く二千八百七十七社を対象に実施し、五百七十七社から回答を得た。設計能力があり、売上高に占める自社製品比率が一〇%以上を「製品開発型中小企業」と定義したところ、機械系で三三・七%、情報サービス系で四一%が該当した。

収益面では、黒字企業は約半数で約二割が赤字と答えた。回答の分析から、開発力は自社製品比率や交渉力に結びつくものの、売上

## 開発、売り上げ直結せず

高増には直結していないことが分かった。川崎に立地する利点では、「交通・輸送の利便性」との回答が六五・六%を占めて一位。二部品・原料調達が多量」「注文・販売先が豊富」などの答えが続いた。

詳細な結果は、二十二日午後六時から川崎市産業振興会館(川崎駅下車)で開く公開講座「川崎市の都市再生と川崎市中小企業の役割」で報告する。無料。神田校舎(東京・千代田)、生田校舎(多摩区)でも生中継で聴講できる。

調査  
赤字  
2割